

Title	ユニヴァーシティ・カレッジ以前のトロント大学 : セント・ジョージ・キャンパスの形成
Author(s)	藤田, 治彦
Citation	日本建築学会近畿支部計画系研究報告集. 1985, 25, p. 821-824
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/26607
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ユニヴァーシティ・カレッジ以前のトロント大学

— セント・ジョージ・キャンパスの形成 —

正会員 藤田 治彦

ユニヴァーシティ・カレッジ

カナダ最大の総合大学であるトロント大学は、オンタリオ州トロント市の中心部に位置するセント・ジョージ (St. George)・キャンパス、および、そこから約33キロメートル東のスカボロ (Scarborough)・キャンパス、そして約33キロメートル西にあるエリンデール (Erindale)・キャンパスとからなる。セント・ジョージはトロント大学創設時からの中央キャンパスでありスカボロとエリンデールは各々1965年および1967年に開校した同名のカレッジのための新しいキャンパスである。起伏に富み、緑深き郊外に建設された両新キャンパスに比べ、約1キロメートル四方に100棟をはるかにこえる建物を含むセント・ジョージは、土地に恵まれたカナダの大学としては、かなり高密度の都市型キャンパスである。そのセント・ジョージ・キャンパスの建築上の象徴的中心が1850年代後半に建てられたユニヴァーシティ・カレッジだと考えられている。

ユニヴァーシティ・カレッジは、英国のロンドンで国会議事堂の設計者チャールズ・バリー (Sir Charles Barry, 1795-1860) の事務所などで仕事をした後、トロントへ移住してきたカンバーランド (Frederic William Cumberland, 1820-1881) と彼の提携者ストーム (William George Storm, 1826-1892) によって、オクスフォード大学博物館 (1855-1860) など英国の大学建築物を調査研究して建てられた、カナダを代表するヴィクトリア期の建造物のひとつである。¹ 人口ほんの数万人という当時のトロントに、このように北米全体から見ても注目すべき建築物が作られたのは、アメリカ合衆国のそれとは異なった、カナダのヨーロッパ文化との関係のありかたによるところが大きい。この旧英領カナダの文化的側面に更に注目すると、ユニヴァーシティ・カレッジと同時代の、あるいはそれ以前の同大母校地のための諸計画にも、北米建築史上興味深い事実が見出だせる。本論は、現在のトロント大学に歴史的に連なる建築諸計画のなかで、ユニヴァーシティ

・カレッジ建設以前の計画の内容を、現存する図面等から確認あるいは推定し得たことから報告し、それらの北米大学建築史上の意義を論ずるものである。

キングズ・カレッジ

トロント大学の発祥に関しては、複数の見方がある。ひとつは、1827年に創設されたキングズ・カレッジ大学 (University of King's College) をその発祥とする見方であり、もうひとつは、そのキングズ・カレッジ大学を英国国教会など特定の社会集団から切り放し、より公的な機関として1849年から1850年にかけて成立したトロント大学 (University of Toronto) をもって真の大学創設とする見解である。キングズ・カレッジ大学は、1827年の創設以来、幾多の曲折を経て、1840年代には教育機関としての一応の体を整えた。しかし、ようやく校舎などの充実が始まった頃には、年々高まるカナダの自治確立の意識と政治的変化の中で、キングズ・カレッジ大学が、あたかもアッパー・カナダを正当に代表する教育機関でもあるかのように、かつてトロントがヨーク (York) と呼ばれた人口数千程度の一植民郡区の時代からその地方の将来の最高学府のために確保されてきた土地を占め続けることは不可能になってきた。² このような状況の中で、キングズ・カレッジ大学の公立大学化は、構想としては、遅くとも1840年代初頭には推進されていたようである。実際のところ、1850年の時点で、キングズ・カレッジの教師の多くが、そのままトロント大学に移籍している。³

キャンパスおよび建物に関しても、同様に不明瞭なキングズ・カレッジ大学からトロント大学への移行が行なわれた。記録に残る実際に建てられたキングズ・カレッジの建物としてはヤング (Thomas Young, 生没年不詳) によって1842年から1845年の間に現在のクィーンズ・パークに建設されたグリーク・リヴァイヴァルの意匠のものがある。これは、1853年のユニヴァーシティ・カレッジの成立により、カレッジとしての役

目を終え、最初はオンタリオ州議会関係の建物、次に精神病院として一時使用された後に取り壊された。⁴

トロント大学アーカイヴズにはヤングの1842年案が不完全ながら保存されている。1845年までに建てられたのはこの案の一部だと考えられているが、図面には「キングズ・カレッジ大学」ではなく「トロント大学」と記されており、この事実関係の解明が待たれる。

これらの図面に現れる大学は、主として3つの建造物から成る小規模なものである。その全体は左右相称の配置で、中央に60フィート×200フィートほどの横長平面の建物、その左右やや前方に60フィート×100フィートほどのほぼ同じ大きさの建物が2つ、計3棟で、浅い前庭を形成するように意図されていたようである。中心となる建物の後方約120フィートには、全長約100フィートの馬家が計画されていた。中央棟は完全に左右相称の平面を持つが、その両脇の2棟は多少異なった平面を有している。但し、その2棟も正面と前庭側の面はほぼ同一のファサードを示しており、かなり形式性を重視した設計だったと思われる。

ヤングの1842年案のなかで実際に建設されたのは、大きな中央棟ではなく、両側の小さな2棟のうちの1棟であった。それはおそらく西側の棟であることが、西棟にのみ施工業者による実施図面が残っていることから推定される。⁵ 既に述べたように、この建物がキングズ・カレッジとしての役目を終えてから地方議会に一時使用されたわけだが、1854年には同じ場所に興味深い建築計画案が作られている。それは相当な規模を有する新しい議会の建物の計画である。それは、大まかな輪郭線による平面図としてのみ伝わるもので、全体が廊下などでつながれ、幾つかの小さな中庭を含む、かなり複雑な平面を有する建物として示されている。しかし、全体としては、3棟からなるヤングによるキングズ・カレッジ計画に似通った、前庭を重要な要素とした構想であり、その前庭の規模も形も、ほぼキングズ・カレッジのものに等しい。連結部を除いた主要部の形態および位置関係から判断して、この議会の建設案は、一般的に新議会建築計画案と言われているものの、キングズ・カレッジ計画案に手を加えた、安直な修正案だったと推定される。

1842年のヤング案以前にも、いくつかキングズ・カレッジ大学に関する計画は作られており、現在、トロント大学アーカイヴズに見出だされる史料からは、その計画の経緯は、次のように推定される。

1838年9月までに3棟からなるキングズ・カレッジ大学の建設案がヤングによって作られていた。

1840年4月までにハワード (John G. Howard, 1803-1890) によるキングズ・カレッジ大学関係の建設案が作られていた。⁶

1842年頃までに再びヤングによる設計がすすめられていた。但し、既に述べたように、これには "University of Toronto" と記されている。

1842年4月23日、にキングズ・カレッジ大学の起工式が行なわれた。

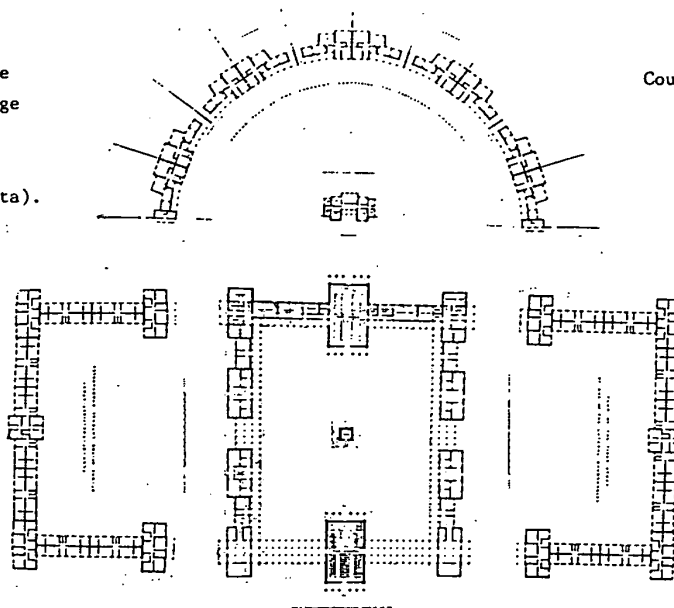
1845年にヤングによる設計の建物の工事入札募集広告が再度発せられている。これは、1842年案による一連の工事であろう。

以上は、主に、建設工事入札募集広告によって推定されるもので、図面としては、1842年のヤング自身によるとおもわれる中央棟の図面10枚、そして施工業者による西棟の図面10枚が伝わるだけで、その他の計画に関しては、確実な具体的史料がない。⁷ トロント大学に保存されている史料のなかでは最古の、ヤングによる1838年の計画に関して注目されるのは、入札広告の分担工事の第2項目に、"The South side of the Quadrangle"と記されていることである。⁸ この記述には種々の解釈が可能だが、その広告の他の項目は3つの建築物からなる大学の両端の2つの建物について述べているので、残る中央の建物は方庭(Quadrangle)形式であったことを意味しているのは確実である。大学の成立期から英国ではむしろ典型的な方庭形式のキャンパスは、英国文化圏内であっても、北米では意外なほどに稀であった。

このヤングの設計が行なわれた1830年代は、アメリカ合衆国ではグreek・リヴァイヴァルの最盛期で、古代ギリシア神殿を模した小さなカレッジや、それを横に幾つか連続させた形式が一般的であった。ニュー・ヘイグンのイエール大学のキャンパスでも未だ小規模な矩形平面の個別の建物の集まりであり、それが今日の姿に近い方庭キャンパスを形成するようになるのは、それから半世紀以上もたった、1890年代のことである。

Possible Arrangement of the
University of King's College
at York, Upper Canada,
by Charles Fowler, 1829
(reconstruction by H. Fujita).

Courtesy of the Ontario Archives



方庭キャンパスのトロントにおける意味

最終的にはトロント大学に帰属することになる各カレッジのプランには、北米全体としては稀な方庭形式のキャンパスが幾つか見出だせる。ユニヴァーシティ・カレッジよりも数年早く計画が始められ、ほぼ同時に竣工したローマン・カソリック系のセント・マイケルズ・カレッジ(St. Michael's College)も、完全な方庭ではないが、その中庭の三方を建物によって囲んだ形式である。ユニヴァーシティ・カレッジも、外観こそまったく異なるものの、同様なプランである。⁹

方庭形式的プラン採用の理由の一つは、トロントあるいはかつてのヨークが、ナイアガラ地域に近く、米国と交戦状態になれば、即時に攻撃を受けるかも知れない一種の前線の町であったという避けられない事実であったかも知れない。実際、19世紀初頭のヨークの地図に一番大きく表されているのは旧ヨーク要塞である。他の政庁や議事堂でさえも、新古典様式などの当時一般的な形態を示しているが、常に頑丈な構で囲まれ、そこを衛兵が警戒していた様子が、当時の絵に散見される。米国と対抗する必要上、英国は原住民と連合軍を形成することがあったが、やはり当時のヨークは北米原住民の広大な土地に作られた植民基地であり、砦のようなものであった。

また、トロントにおける大学と地域社会との関係がおもに18世紀にアメリカ東部に設立された私立大学のそれらと相当に異なっていたことも方庭形式の採用と係っていたかもしれない。米国の場合、特定の宗派が特定の地域と結び付き、そこにその宗派のカレッジを開設するという、程度の差こそあれ、かなり密接な大

学と地域との一対一の対応が、19世紀まで存在していた。それに比べ、トロントでは、先づ英国国教会系のカレッジが開設されたが、19世紀中頃には、それと競うように、同市内にプレズビテリアンのカレッジとローマン・カソリックのカレッジが相次いで設立され、それぞれ、イングランド、スコットランド、そしてアイルランド系の住民と結び付いていた。このような状況の中で、ユニヴァーシティ・カレッジが無宗派のカレッジとして開設されるのだが、それでさえも完全に無宗派・無派閥の教育機関であるのは難しかった。トロント大学は、これらの異なったカレッジの学生の学習研究の成果を確認し学位等を認定する機関として設置されたのであり、後にセント・ジョージ・キャンパスと呼ばれるようになる土地の内外に建設された各カレッジは多かれ少なかれ独立の教育機関だったのである。特に、ローマン・カソリック系のセント・マイケルズ・カレッジなどが防御的な方庭形式に近いプランを採用したのは、建築的には自然な事でもあった。

地域社会あるいは国際政治上の類推を避け、建築的事実に基づいて考究するならば、もうひとつのキングズ・カレッジ計画、即ち、英国の建築家に設計を依頼し、ロンドンから送られてきたにもかかわらず、まったく実施されなかったキングズ・カレッジ計画に注目すべきであろう。それはコヴェント・ガーデン・マーケットの設計者として知られるチャールズ・ファウラー(Charles Fowler, 1792-1867)により設計され、1829年に当時のヨークに送られてきたものである。

ヤング案と異なり、現在のトロント大学とは実質的な関係を持たないファウラー案は、オンタリオ州のア

ーカイヴズに保管されている。計15枚に及ぶその図面は、全体の敷地配置図を欠くために、その全貌をつかめないが、各種史料により計画案を再構築することは可能である。ファウラーによるキングズ・カレッジ大学計画は、おそらく、4つのブロックから成っていたであろう。その中心となるのは、北側にホール、南側にチャペル、その両側に各々4棟、計8棟の講義棟、合計10棟の建物で構成された中央建築物群であろう。その東西には"U"字型平面の2つの学生寮が中央に向かって開くように、即ち、中央建築物群の各一辺とそれらの"U"字型とで、各々中庭を形成するように計画されていたと推定される。また、中央建築物群の北側には、10軒の教授宿舎が学長宿舎を中心に半円形を成して並ぶように考えられていたと思われる。そしてファウラー自身、これらの図面に「方庭(Quadrangle)」

という言葉を残しているが、このキングズ・カレッジ計画は、19世紀前半の北米では、極めて稀な方庭形式のキャンパス計画であった。

ファウラーの壮大な計画は、経済的かつ政治的な理由で実施されなかった。しかし、その後あらわれたアッパー・カナダの建築家によるキングズ・カレッジの設計は、何らかの形で、無用の物となったファウラー案を基礎にしている。なかでも、その方庭形式は、セント・ジョージ・キャンパスの形成に潜在的な影響力を有していた。幾つかの方庭プランを経て、その20数年後、教育的理念も政治的基盤もまったく異なるユニヴァーシティ・カレッジが、造形的にもキングズ・カレッジのグリーク・リヴァイヴァルとは対照的な、中世的諸様式の折衷をもって、それに取って変わった時でさえ、方庭形式のプランが採用されたのである。

註

1. Oxford University Museum は Thomas Deane (1792-1873) と Benjamin Woodward (1815-1861) によるハイ・ヴィクトリアン・ゴシック、より厳密には "Ruskinian Gothic" の代表作である。Cumberland と Storm は、同じく Deane と Woodward による Cork (アイルランド) の Queen's College も参考にして。Douglas Richardson, *Gothic Revival Architecture in Ireland*, New York, 1978. Eve Blau, *Ruskinian Gothic, The Architecture of Deane and Woodward, 1845-1861*, Princeton, 1982. 参照。
2. Upper Canada は旧英領カナダの一部で、現在のオンタリオ州の南部地方にあたる。現在のオンタリオ州の経済活動の中心地であるオンタリオ湖北岸地方の厳密な土地分割は1791年に行なわれた。その当時、現在のトロントである York Township (ヨーク郡区) は、一時的に Township of Dublin と呼ばれていた。ちなみに、その東 Scarborough は Township of Glasgow, 更に東の Pickering は Township of Edinburgh と呼ばれていた。
3. Claude T. Bissell, *University College, A Portrait, 1853-1953*, Toronto, 1953, 4.
4. ヤングによるドーリック・オーダー地上3主要階のキングズ・カレッジは1886年に取り壊された。
5. トロントの19世紀の市街地図には、キングズ・カレッジあるいはユニヴァーシティ・オブ・トロントと思しき建築群全体を輪郭線で示し、そのうち東南の一棟のみを黒べたで図示するものがあり、建設されたのは東南棟ではなかったかと思わせる史料となっている。
6. 1840年4月に工事入札広告が出された、ハワードの設計による、キングズ・カレッジ関係の建物は、アッパー・カナダ・カレッジの校地に計画されたもので、キングズ・カレッジの主要部がヤング案とは別にそこに建てられようとしていたのか、あるいは、キングズ・カレッジよりもむしろアッパー・カナダ・カレッジにより多く属する建物がキングズ・カレッジ関係工事として扱われていたのかは不明である。ハワードは、1835年にもキングズ・カレッジの設計を試み、その図面を時の知事に献呈しており、ヨーク(トロント)郡区の大事業であったキングズ・カレッジを巡って、ヤングとハワードが競っていたことが伺われる。
7. 中央棟関係図面13枚、西棟関係図面12枚が登録されているが、現在はそれぞれ10枚が確認されるのみである。
8. "No.2. The South side of the Quadrangle, containing the Chapel, Library, Museum, Lecture Rooms, &c."
9. ユニヴァーシティ・カレッジの意匠に関しては、拙論「シンメトリーとイレギュラリティー 第1部 イレギュラー・シンメトリーの形成」(日本建築学会論文報告集、第343号、153-161) 参照。

(京都工芸繊維大学助手・学博)